



『きららんぷ』第2号発行にあたって

岡崎眸(子どもLAMP理事)

新聞報道によると、自民党は全人口の1割を目処に外国人の定住を推し進めるための基本法制定の検討に入ったという。日本で一定期間働く外国人の受け入れや管理政策を一元的に担う「移民庁」を設置し、少子高齢化による人口減少の流れを踏まえ、海外からの人材を確保しようというのである。これはグローバル化の下で企業競争力の鍵として賃金抑制を位置づけてきた経済界が従来から政治に要請してきたものである。あわせて、留学生も30万人受け入れという数値目標がだされている。

一方、ニューカマーといわれる日系南米人や日本人配偶者などにおいては、その多くが実質的には、定住の道を辿っているにも拘わらず、これまで対症療法的な対策しかとられてこなかった。この点では、移民庁設置を受けて、公費による日本語学習制度など、一定の前進が見込めるかもしれない。しかし、注目しなくてはいけないことは、**移民受け入れが経済界からの強い要求**によってなされた点である。例えば、フィリピンやインドネシアからの受け入れが始まった看護・介護の職場を考えてみよう。これも新聞報道によると、この間、介護職員の離職・退職、養成校の定員割れ・閉鎖などが相次いでいるという。この理由は、<3K職場で働きたがらない日本人>などということではない。25%にも及ぶ離職者(07年度全国調査)は、**離職理由として「賃金が低い、収入が不安定」**を上位に挙げているという。介護では食べていけないのである。

<低賃金では日本人は雇えない、なら低賃金でも意欲的に働く外国人を発展途上国からどんどん呼び込もう>というのが、移民受け入れを主張する経済界の本音だということが分かる。今後、<安価なサービスを可能にするために海外から人材を確保しよう>というキャンペーンがマスコミを使って大々的に喧伝されることが予想される。これまでも、レモンの自由化や米の自由化などで消費者の利益がクローズアップされてきたように。

しかし、こうしたやり方は、移民してくる側だけでなく、受け入れる側にも禍根を残す。日本社会の足元をみると、グローバル化の中で進んだ多方面に及ぶ規制緩和により、勤労貧困者(ワーキングプア)が増えた。年収200万円以下という、日々の生存すら脅かされる絶対貧困層が作り出されている。こうした社会状況の中での海外からの単純労働者の受け入れは、さらに多くの貧困層を新たに作り出すことは必至である。この行き着く先は、**持続不可能な浪費社会、人間開発ではなく、人間を機械以下のものに、「移民暴動」を日常化する社会**であろう。

移民庁設置という動きの中で、**「健康で文化的な生活を営む権利」を全ての日本住民(国籍を問わず)に認め、その実質化をはかる**ことを目指し、その視点から子どもたちの学習支援のあり方を考えていきたいと切に願う。その際、**「移民を含む海外国籍のものはスウェーデン国籍を持つものと同じの権利を持つ」という理念**を基本に据えて、労働政策・住宅政策・社会援助政策を実施し、その結果、60の家庭言語(子どもの母語)による公教育に、6万人の海外国籍の子どもの参加を可能にしたという1970年代のスウェーデンの受け入れが一つの参考になると思う。もちろん、国の規模がスウェーデンと日本では大きく違う。また、スウェーデンのこうした政策はグローバル化の中で修正・後退を余儀なくされている。したがって、<規制を徹底して緩和し、全てを市場の自由に任せればうまくいく>という市場主義が猛威を振るう中で、どのように実現するか、その具体的有り様を考えていくことは、今に生きる私達一人ひとりが、考えなければいけない課題である。<子どもに日本語の力をつけることが私の役割>と決め付けてしまうのでは、こうした問いに答えることはできない。

<親は自分の馴染んだ言語で子どもを教育でき、子どもは自分の馴染んだ言語で学校教育が受けられる>、そうした中ではじめて<人としてもっている能力が開発され、調和した節度ある持続可能な社会に向けて歩を進めることができる>という認識の下に、そのために、私は、今何ができるのか、を課題として追求していきたい。

《秋の収穫祭 芋ほり会》

2007年11月25日に秋の収穫祭 芋ほり会を行いました。東京からつくばまでの小旅行となりました。子どもたちは普段は個別に勉強することが多いのですが、この日は他の子どもたちやスタッフが一同に会しました。また、近所に住む筑波大学の先生や留学生も参加してくださいました。留学生の存在は、子どもたちが自らの将来への夢や希望を描く上でのロールモデルとなる貴重な存在です。そして、子どもたちは他の子どもやスタッフに接することによって、多くの人に見守られていることを感じてくれていることと思います。スタッフにとっても、定例会(月2回)で話題に上る子どもたちと直に接し、これからの活動に益々熱が入ることと思います。

参加した子どものひとり、えいさんが芋ほりの感想を寄せてくれました。えいさんが感じた幸せが綴られています。尚、子どもたちの交通費の補助には、皆様や各機関からいただいた寄付金等を使わせていただきました。ありがとうございます。



おなかも心も満足、満足!

(原みずほ)

芋ほりの感想

えい(中2 中国出身)

2007年11月25日、この日は想像以上にいい思い出をしました。紅葉が真っ赤になるこの季節に私は子どもLAMPの子どもや大人、そしてボランティアと一緒に茨城県に行って、芋ほりをして来ました。

朝9時に、茗荷谷駅で宇津木先生と待ち合わせをして、秋葉原に行きました。そこで、子どもLAMPのみんなと会って、あんまり話してなかったから、「ああ、今日は大丈夫かな」と心配しました。そして、いざ茨城県に出発！！

1時間半ぐらいでつきました。また、バスに乗り換えて、小野崎のバス停につきました。また何分待つと、岡崎先生がエプロン姿で登場しました。私たちをつれて芋ほりの場所に行きました。

ついに、待ちに待った、そして今日の本当の目的「芋ほり」がスタート。ちょっと大変だったが、とても楽しかったです。掘ると言えば、「食べる」ですよ～！！芋を焼くことも一苦労です。枯葉を集めるため、私たち何回も近くの公園に行きました。今思い出すと、枯葉集めは私にとって、一番楽しかったことかもしれません。

また、とん汁と一緒に芋を食べる時間はとても幸せでした。ごちそうさまでした！！

最後になって、「もう今日の行事は終わるのではないか」と思ったすぐ後、岡崎先生のめいが来ました。なんと今日は岡崎先生のめいが誕生日だったんだ！！私たちは彼女の物語を聞きながら、ケーキを食べました。今日はただ楽しかっただけではなくて、自分の生活が幸せだと感じた日でした。(原文のまま)

《子どもたち 学習の様子》

現在支援中のマエツトさん(現在中学2年生 フィリピン マニラ出身)が小学6年生のときに描いた絵本を紹介します。「きつねの窓」は6年生の国語にある話です。ある日、不思議な青い花畑に迷いこんだ「ぼく」は、花畑にぽつんとある「ききょうや」という店で、きつねが化けた子どもに指を青く染めてもらいます。その指で作った窓から見えたものは…。

マエツトさんは、この物語を日本語と英語とタガログ語の3ヶ国語で描きました。今回はその一部をお目にかけます。絵に書かれた文の最初が日本語、次が英語、最後がタガログ語です。マエツトさんが描いたやさしい色合いが少しでも皆さんにお伝えできればと思います。

『きつねの窓』

マエツト・バスケス

(原文のまま)



うしろから「いらっしゃいまし」。ぼくはうしろ見えました。子供が見えました。子供は子ぎつねです。

Then i heard something from behind, "May i help you?" then i saw a little child.

Bigla akong may narinig na nagsalita "Maari ba kitang matulurgan!!"



ぼくはすぎ林へ行きます。ぼくはまた窓を作った。今度は、まどの中に雨をふっています。長くつが見えました。かぞくの家が見えました。ぼくはうれしい。

i went to the cedar forest, i made the window again, This time i saw a raining window, boots, and my childhood house.

umuwi na ako sa bahay, habang naglala kad ako ginawa ko ulit ang bintana nakita ko na umuulan sa loob.



次の日、きつねの家に行きます。きつねの家はありません。きつねはいません。

The next day I decided to go to the fox's house but the fox wasn't there nor was his house.

kina bukasang napagisipan kong hanapin ang alamid nguhit wak ito.

(三輪充子)

《支援者の声》

子ども LAMP の活動に参加して

杉藤 志帆(お茶の水女子大学4年)

私は中学の時からずっと日本語教師になりたいという夢を持っていました。しかし、私は日本語教育の現場を一度も見たことがなく、またこれからもそういった機会がなかなか持てそうになかったし、それどころか何かを教えた経験も全くなかったため、それが私の将来に対する大きな不安材料になっていました。そんな時、受講していた日本語教育の授業で子ども LAMP の存在を知り、興味を持ち、私も活動に参加することを決意しました。

今、私は高一(教え始めた当時は中三)のフィリピン人の男の子に英語を媒介にして国語を教えています。授業で、まだ母語が確立しないうちに日本にやってきた外国人の子どもについて学びましたが、実際に支援をしてみると、母語も第二言語も十分でないということがどれほど子どもの学力に影響し、多くの困難をもたらすのかを実感として感じました。こうやって支援をしていなかったら、こんな子どもたちが日本にいるということを知らずに過ごしていたのだと思うと、知ることの大切さを痛感します。

子ども LAMP には、日本語教育に携わる様々な方がいらっやいます。学部生の私が、しかも日本語教育を専攻していない私が、こうやってみなさんと一緒に活動できることは本当に貴重なことであり、学ぶことがたくさんあります。

ある先輩がおっしゃっていたことで、非常に感動したことがあります。それは、専門的に日本語教育を学んだ人や優秀な人だけができるのではなく、誰もが参加し、力になれるのだということです。私はまだ日本語教育について深く勉強してもいいし、専門的なことは分からないので、大学院で深く学び、実際に日本語教師もしていっやる他のメンバーに対して尊敬の念を持つと同時に、それに比べて私にできることはあまりないのだと感じていました。しかし、この言葉を聞いて、そういう姿勢ではいけない、私もそういった子どもたちの力になりたいと強く思うようになりました。

今まではただ漠然と日本語を外国の方に教えたい、と

いう思いだけでしたが、子ども LAMP の活動を通じて、将来にもこの活動をつなげていきたい、日本に暮らす外国人の子どもたちの学習支援にもっと携わっていききたいと思うようになりました。自分にできること、そんな小さなことでも子どもたちのなんらかの力になれる。そう信じて、これからも子ども LAMP の活動に携わっていききたいと思えます。

《支援者 合宿》

今年の合宿は、4月5・6日に江ノ島にある神奈川女性センターで行われました。宿泊・一日参加者合わせて総勢 17 名、波静かな相模湾を臨むセンターで有意義な時を過ごしました。今年の合宿は岡崎先生の講演に始まりました。事例報告、母語先行学習ワークショップ、そしてランプの未来をじっくり語りあいました。ワークショップでは母語先行学習の理念をどのように支援に生かせるのか、国語教科書を題材にワークシート作成に取り組みました。支援経験者・未経験者それぞれに多くの発見があり大好評でした。今後もワークショップを続けようという声があり、ランプの新しい活動の芽が芽生えました。今後も子どもたちの力を引き出す支援にすべく、私たち一人ひとりが持てる力を出し合って取り組もうと、気持ちも新たに江ノ島の海を後にしました。



みんなで集まる大切な時間、がんばるぞ！



母語先行学習ワークショップ 考え中！

(三輪充子)

《中学校の教科書・翻訳資料集 中国語版・ポルトガル語版 発行のお知らせ》

子ども LAMP では、昨年、『中学校の英語・翻訳教科書 中国語版』(NEW HORIZON、東京書籍版に対応)を作成し、日本語を母語としない子どもたちに届けてきました。そして 2008 年4月には、『中学校の英語・翻訳教科書』のポルトガル語版が完成する予定です。いずれの本も私たちの呼びかけに答えてくださった、たくさんの方々の力によってできあがったものです。この本を手にした子どもたちが「勉強してみよう」「そうか、わかった!」という思いをもってくれれば、こんなに嬉しいことはありません。

さらに、私たちは、中学校の国語の教科書に掲載されている教材文についても、著作権の利用許可を得た上で、中国語に翻訳する活動を進めてきました。この4月、『中学校国語教科書・翻訳資料集・中国語版・』(東京書籍版に対応)として冊子になる予定です。

翻訳文を活用した学習支援に参加したある生徒(中学3年、メキシコ出身)は、中学校卒業に際し、こんなメッセージを残してくれました。「(翻訳文をみて)全部スペイン語でびっくりした。これまで簡単な日本語でいるんな先生が内容を教えてくれていた。それもよかったけど、スペイン語の翻訳文を読んで、自分は初めて本当のことを知ることができた」と。

「本当のことを知る」機会を子どもから奪うようなことがあってはいけな、そんな願いを込めて、私たちはこの資料集を子どもたちに届けたいと思います。

なお、上記の本の入手方法につきましては、事務局宛にご一報ください。(清田淳子)

《給付金が支給されます》

ボランティアとして地域を支える活動を支援する「キリン福祉財団」より、30 万円の助成金が給付されることになりました。4月に贈呈式が行われ 2 名出席しました。また「福祉医療機構」からも 50 万円の助成がいただけることになりました。教材の翻訳、製作、支援の充実のために、大切に使用させていただきます。(三輪充子)

《平成 19 年度収支報告書》

平成 19 年度子ども LAMP 会計収支計算書			
平成 19 年 4 月 1 日から平成 20 年 3 月 31 日まで			
特定非営利活動法人子ども LAMP			
(円:単位)			
科目	金額		
収入の部			
1 会費・入会金収入			
入会金収入			
会費収入	19,000		
前年から繰越	269,546		
2 事業収入			
普及啓発事業収入	25,480		
3 補助金等収入			
地方公共団体補助金収入	9,700		
民間助成金収入			
4 寄付金収入	191,617		
5 基本金運用収入			
基本金利息収入	0		
当期収入合計		515,343	
収入合計			515,343
支出の部			
1 事業費			
学習支援事業	7,770		
調査研究事業	0		
教材開発事業	51,930		
支援者教育事業	12,930		
情報発信事業	3,958		
2 管理費			
役員報酬	0		
給料手当	0		
備品費	777		
光熱水費	0		
収入印紙代	0		
通信運搬費	3,600		
印刷製本費	0		
福利厚生費	58,905		
その他手数料	980		
雑費	869		
3 予備費	0		
当期支出合計		141,719	
当期収支差額			373,624
次期繰越収支差額			373,624

《平成 20 年度事業計画書》

平成 20 年度事業計画書						
平成 20 年 4 月 1 日から平成 20 年 3 月 30 日まで						
特定非営利活動法人子ども LAMP						
1. 事業実施の方針						
平成 20 年度は、東京都文京区とその近隣地域を主な活動場所として事業を展開する。まず、定期的な活動として、外国人児童生徒に対する学習支援を実施する。また、前年度の調査研究事業で得られた成果の公表、実施教材の提供を行う。特に翻訳教材の提供に力を入れる。						
2. 事業の実施に関する事項						
(1) 特定非営利活動に係る事業						
事業名	事業内容	実施 予定日時	実施 予定場所	従業者の 予定人数	受益対象者の範 囲及び予定人数	支出見込 み額(円)
学習支援 事業	外国人児童生徒を対象とし、多言語による補習を行う。	毎週1回放課後(実施曜日、時間帯はクラスによる)	東京都文京区並びに近隣地域	30人	文京区近隣在住外国人児童生徒、30人程度	60,000
調査研究 事業	言語発達上の問題についての調査・研究を行う。	随時	東京都文京区並びに近隣地域	20人	文京区近隣在住外国人児童生徒、30人程度	10,000
教材開発 事業	外国人児童生徒の学習用として、学校指定教科書の翻訳教材、副教材等の作成を行う。	随時	法人事務所	20人	不特定多数	400,000
支援者教 育事業	外国人児童生徒の支援に携わる者を対象に、勉強会や研修会を開催する。	勉強会は毎週火曜、研修会は半年に1回	東京都文京区	各回約10名	支援に携わる者20人	60,000
普及啓発 事業	ホームページやメールマガジンを通じて、活動内容を紹介するとともに、外国人児童生徒の学習支援のための情報を発信する。	随時	法人事務所	2人	不特定多数	10,000

(富田啓子)

《賛助会員・正会員の募集》

今年度も「賛助会員」または「正会員」として、子どもLAMPを支援して下さる方を募っております。

「賛助会員」とは、経済的にサポートすることによって間接的に支援に関わっていただく会員です。賛助会員には、交流会や講演会などへのご招待やご優待を予定しております。なお、賛助会費はイベント時の子どもたちへの援助、留学生や学部生の合宿参加への資金補助等に大切にさせていただいております。

「正会員」とは、直接支援をしていただく会員です。内容は、クラスの担当、教材作成、定例会、合宿、運営などです。いろいろな言語の話者、いろいろな立場の方を必要としています。

みなさまのご協力、ご参加をお待ち申しあげております。尚、募集の詳細は HP にございます。賛助会員、正会員に関心を持たれた方は、事務局へご連絡ください。

(原みずほ)



子ども LAMP 連絡先
 〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1
 お茶の水女子大学 日本語教育コース
 岡崎研究室 TEL: 03-5978-5213
 E-mail: info@kodomo-lamp.org
 ホームページ: http://kodomo-lamp.org
 発行: NPO 法人子ども LAMP
 編集: 原みずほ・三輪充子 デザイン: 金明浩
 ここに掲載されている記事や写真の無断使用を禁じます。